

# JP産業展協会が インクジェットセミナー

印刷機材の展示会「JP」を主催するJP産業展協会が、インクジェットプリンターに特化したセミナーを開催した。OGBSに関連するメーカー、参加者が多数集まり、最新技術を学んだ。

「JP展」を主催するJP産業展協会がセミナー「付加価値製品創出フォーラム2017」を10月29日、大阪市内の「大阪印刷会館」で開催した。

このセミナーは、2017年に開催される印刷機材展「JP2017・ICTと印刷展」(マイドームおおさか・4月19日、20日)で主要展示される大判や厚物UVなどのインクジェットプリンターと、高機能小ロット向けインクジェットプリンターを、セミナーを通して事前にクローズアップさせようという試み。

午前の部では導入編として株式会社森川博光氏が厚物UVプリンター導入時のポイントを紹介。

実践編ではコムネット㈱の富吉章一氏がプリンターとレーザー加工機を組み合わせて利用しているユーザー実例を紹介した。㈱ワビットの中山坂夫氏はガラス、ゴルフボールなど様々な素材、商材へのプリントビジネスを解説。

さらに、成功事例編として大判UVインクジェットプリンターの活用事例を㈱エーゼット企画の原田崇氏がサンブルの看板と共に披露。㈱ホテルコーポレーションの福永進氏はUVプリンターを使った商品開発の苦労話のほか、新商

品のオリジナルUSBメモリ「YousB」の紹介もおこなった。昼休みには、㈱アイエヌジーが新商品「UVプリンター用転写シート」のサンプルを配布し、実演をおこなった。

業界紙の「印刷タイムズ」もトピックとコラム、デジタル印刷機のデータベースからなる新サービス「デジタルプレスデータバンク」を案内。さらにJP産業展協会の西井幾雄会長が、

「従来、同じものを大量に刷るのが印刷業でした。最近ではニッチな市場向けに小ロットで付加価値をつける印刷が求められています。小さな市場での商売は大変ですが、パイオニア精神を失わず道を切り開いて欲しい」と述べた。

午後の部では、インクジェットプリンターに関連する商材を扱うメーカーや商社の担当者が登壇。各社の製品の特長や活用事例が紹介された。

武藤工業㈱はインクの特性と独自技術によるNUTOHスマートプリンティングテクノロジーを紹介し、自社製品の特性をアピールした。㈱ルキオは業界初の両面同時印刷可能なインクジェットプリンター「SKYJET Mima3200」を紹介した。



様々な事例がスクリーンで紹介され、参加者はインクジェットプリンターの使い方を学んだ。